故 五十嵐日出夫先生を悼む

北海道大学大学院教授
小林英嗣

「今，土木工学の世界では，モビリティ・マネジメントという考え方が話題になっています。これは自動車や道路，まちづくりなどの政策を総合的に考えようとするものです。(‥中略‥)CO_2を吸収する森林の維持管理にも道路の維持・整備は必要です。」

「まちづくり3法が見直される過程でコンパクトシティという概念が注目されました。(‥中略‥)まちをコンパクトにして，高齢者も利便性の良い都心で生活できる環境をつくり，みんなで仲良くのにぎやかに暮らせば(中略)‥CO_2排出量削減にも結びつきます。」

「行政の役割は，住民や企業を背後から促すことだと思います。そして，‘こういう取り組みをすれば，将来このようなすばらしいまちになる’という予想図を住民の皆さんに示す必要もあると思います(‥後略)。」

これは五十嵐先生がご逝去された前日(10月19日)に行われた対談席上での，先生のご発言のごく一部です。

亡くなられたご連絡をいただいたときは，その報を信じられず，ただ先生の色々なお話やお考えを伺った思い出が繰り返し頭を巡るだけでした。小生，門下生ではありませんでしたが，都市計画，地域計画の審議会や委員会，また全国に先駆けて日本都市計画家協会の支部を北海道に設立し初代支部長として民・官・学の交流を開始された時，あるいは日本都市計画学会北海道支部設立へ向けての準備会を発足したときなど，節目節目で色々なお話を伺う機会があったことは，私にとって大変に恵まれていた，と感じつつ‥。

佐藤馨一先生からは，ご逝去の前日にも辻井達一先生との対談を持たれたことを伺いました。また，その対談では，地球温暖化などへの世界的な視座と地域の役割を長期的な展望と共にお持ちになり，21世紀，広大な北海道での新しいライフスタイルをご提案されつつ，意識啓発や環境教育の重要性，総合的なまちづくりやみちづくりのあり方，市民と行政そして専門家の役割などについて，これからの具体的な行動計画を語っておられたことを知り，先生が常日ごろお話になっていた北海道に対する危機感と今後の展望に心を傾けられていた姿勢とそのお考えを改めて思い出しておりました。

五十嵐先生は北海道都市計画審議会会長を永らくおつとめになり，地方分権化の風が全国で吹き始めた時期，北海道都市計画行政を指導されて来られました。審議会の場で，五十嵐会長，自らが市民の立場に立たれたご発言をなさっていたことも強く印象に残っております。五十嵐先生の後任として小

生が6年間審議会会長のお役を引き受ける折に，この事を含めながら審議会運営について伺ったことがあります。「小林さん。官庁の隠れ蓑として審議会を批判して構えながら審議会を見る目がまだ残っています。審議会における委員の多数派が形成されつつあるなか，少数派からは如何に多様な意見を抵抗感無しに引き出すのか，また座長や事務局がその過程にどのようにかかわるかを詳らかにしながら運営することが大切です。」とゆっくりとお話いただいたことも，昨日ように思い出されます。

この様に，お会いするときはいつも「威して猛らず」のお人柄で，仕事については厳しく論理的，積極的であるのに対して，仕事を離れてはロマンチストであることに魅力を感じつつ，処世の目を開かせて下さいました。

いまはただ五十嵐先生のご遺徳を偲び，その多大なご業績とご功績を讃えつつ，心からご冥福をお祈り申し上げます。

五十嵐先生との触れあいの一端をご披露し，私の責をふさぎたいと思います。　　合掌

五十嵐日出夫先生のご業績

北海道大学大学院教授
佐藤馨一

北海道大学名誉教授五十嵐日出夫氏は2006年10月20日にご逝去されました。享年74歳でした。先生は1932年に札幌市でお生まれになり，小学校，中学校，高校，大学とも札幌市で過ごされました。1954年3月北海道大学工学土木工学科を卒業し，同年4月運輸省に採用され，直ちに北海道開発局へ出向されました。1956年4月北海道大学工学部土木工学科講師となり，同58年4月助教授に昇任しました。1975年7月教授に昇任され，土木工学科交通計画学講座を担任し，1995年3月北海道大学を停年退職されました。同年4月北海学園大学工学部土木工学科教授となり，1997年4月～2001年3月工学研究科長に就任し，2002年3月同大学を停年退職されました。同年5月社団法人北海道開発技術センター会長に就任されました。

北海道大学においては交通計画学講座の設立に参画し，交通計画学，都市地域計画学，土木史学の創設，発展に貢献されました。それまで道路計画，鉄道計画などは個別に策定され，相互の連携は図られていませんでしたが，土木計画学の確立によってこれらが体系化され，総合化しました。先生は交通現象や都市活動を定性的かつ定量的に把握するモデルや理論の研究に尽力され，その成果は「土木計画数理」として出版されています。また街路除雪の経済効果推定の研究を行い，積雪寒冷地における除雪予算の重要性を明示し，除雪基準の改善に寄与しました。さらに道路ネットワークの理論構成に関する研究では，北海道のみならず全国の道路交通体系の整備理論を提案しました。

先生は札幌農学校の建学精神である「学理と実務の融合」を研究の基本理念とし，「過疎地域における公共交通機関の機能に関する研究」，「空港アクセス交通の機関分担モデルの構築」，「移動制約者を考慮した公共交通機関の機能と課題」，「多属

性効用関数を用いた商業地評価モデルの構築」,「青函トンネルの有効利用方策」など実務の課題を分析し,交通計画学,都市計画学,地域計画学において新たな理論を構築しました。

この中でとくに注目されるのは「青函トンネルの有効利用方策」に関する研究であり,客観的な輸送実績データを分析し,航空利用者や物流事業者のニーズを適確に把握して有効利用方策を提言しました。青函トンネルの開業後,その輸送実績は先生の予測したように推移し,北海道と本州の地域間交流,産業振興,そして新しい北海道文化の創成に大きく貢献しています。この功績により平成6年10月北海道知事から北海道科学技術賞が,11月に日本地域学会功績賞が授与されました。

日本都市計画学会には1972年に入会し,多くの論文を発表してきました。また評議会委員として活躍する一方,北海道内において会員の勧誘を積極的に行い,学会活動の活性化に貢献してきました。さらに北大工学部および北海学園大学工学部で長年にわたり都市計画学を講義し,北海道都市計画審議会,札幌市都市計画審議会,小樽市都市計画審議会,苫小牧市都市計画審議会の会長,副会長を歴任して地域社会に貢献したことにより同14年11月20日,日本都市計画学会功績賞が授与されました。

土木学会においては理事,土木教育委員会委員長,土木史研究委員会委員長などを歴任し,平成15年5月22日土木学会名誉会員に推挙されました。さらに日本地域学会副会長,日本交通学会,日本都市計画学会,日本オペレーションリサーチ学会,日本商店街学会の理事,支部長を歴任しています。この中で特筆されることは,土木用語大辞典の編集委員長として1000人を超す執筆者の選出及び原稿依頼,23000語を超す用語解説の校閲を行ったことです。同大辞典はわが国における技術系用語辞典として高い評価を受けています。最後に,平成18年11月17日付けで正4位瑞宝中綬賞の叙位叙勲がありましたことを報告します。　　礼拝